

## I 学校の概要

### キャリア教育モデル校事業 観音寺市立豊浜中学校

#### ◆児童生徒数及び教員数

○児童生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
2学級 57名	2学級 55名	2学級 60名	2学級 4名	8学級 176名

○教員数 20名

#### ◆学校の特色

校区内の保育所、幼稚園、小学校、中学校がそれぞれ一施設であり、生徒はもちろん保護者の人間関係も固定される傾向がある。また、「ちょうさ祭」を中心とした自治会の結束が強く、伝統やしきたりを重んじる地域性であり、祭（子供会）では絶対的存在である総代（会長）の指示に従うことを徹底して教育されている。そのため、教員の指示にも従順に従うことができる生徒が多い。生徒数も少なく、安心・安定した場所でいつもの友だちとの居心地の良さに慣れているため、広く社会と関わって他者との信頼関係を積極的に構築できるような力が十分とは言えない。また、教育現場でも、閉塞的で慣例を重んじる傾向があるため、やるべきことを考えて主体的に行動のできる生徒を育成する基盤があまり整っていない。

また、キャリア教育を高等学校への進路指導と捉えている生徒、教員がほとんどであり、発達段階に応じた社会的・職業的自立に向けたキャリア教育を展開する必要性がある。

## II 研究主題等

研究主題

未来を見つめ、自己の生き方を主体的に選択できる生徒の育成

#### ◆研究主題設定の理由

生徒は限られたコミュニティの中ではあるが、相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを伝えたりして他者との信頼関係を築く力は育っている。また、祭を通して幅広い年代の人と円滑にコミュニケーションをとり協働するといった基礎的な社会形成能力も育っている。しかし、新しく人間関係を広げたり、広く社会と関わっていったりしようとする意欲は乏しい。そのため、価値の多様化が進む現代社会において、様々な他者を認めて社会に参画し、新たな社会を構築していく力を育成する必要がある。

また、生徒は、集団の一員として与えられた役割に責任をもって果たすことはできている。しかし、よりよい生活に向けて自ら課題を見付けたり、解決方法を考えて主体的に行動したりする体験に乏しく、課題対応能力の育成が本校の最も大きな課題と言える。一人一人の社会的、職業的自立に向けて、様々な生き方や在り方に目を向けると共に、自らが主体的に判断してキャリアを形成していく力を育成していきたいと考え本研究主題を設定した。

## ◆研究内容及び方法

### (1) 探求的な学びの実践

実社会とのつながりを感じることができる問題を設定し、協働的な学びを実践することを通して、課題対応能力を養うと共に、学ぶ（働く）意義を感じられるようにする。

### (2) プロジェクトの運用

職員が以下の3プロジェクトに分かれて研究をする。

- ・「地域を拓く」・・・地域との交流行事やボランティア活動などで多様な他者と協働する体験を通して、社会の一員として自分の役割を果たしながら主体的に行動できるようにする。
- ・「なかまと拓く」・・・行事等において、課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり意思決定をしたりすることで、「人間関係形成力」を高める。
- ・「未来を拓く」・・・学ぶこと・働くことの意義や役割を理解し、多様な生き方に対する様々な情報を取捨選択・活用することができるようにする。

### (3) 「キャリアファイル」の開発と活用

行事を含めた様々な学習の事後に書くポートフォリオに、項目や自己評価欄を工夫することで、自己の学びや活動を振り返り、新たな学習への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりできるような学校独自の振り返りシートにする。また、「ポートフォリオ」を蓄積した「キャリアファイル」を作り、それを取捨選択してまとめる形で「キャリアパスポート」を作成し、生徒のキャリア形成に生かされるようにする。

## III 研究実践

### ◆指標設定と達成に向けた取組

- 1 (生徒質問紙) うまくいかないことがあれば、その原因を考え、問題を修正したり解決したりしようとしていますか。

指標 「①よくする+②している」の合計



#### 指標の達成に向けた実践

##### 1. 探求的な学びの実践

各教科の授業において、探求的な学びの実践について研究を進めた。実社会とのつながりを感じることができる問題を設定し、教科の見方・考え方を働かせて解決することで、学ぶ意義を感じることができるようにした。<資料①>

#### 教科の授業(数学科「比例」)

#### 学ぶ(働く)意義



#### 問題の工夫

2分はかる砂時計を作ろう

実社会とのつながりを感じる問題設定

数学の見方・考え方を働かせて問題を解決

## 2. 地域を拓くプロジェクトの取組

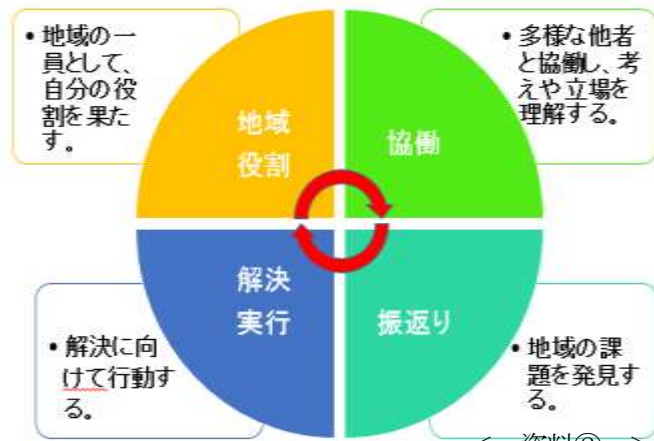
<資料2>

### (1) 小6～中3の縦割り班での「町内清掃」

小学6年生と全校生が縦割り班を作り祭でちょうさが通る道を掃除した。昨年に続いて祭は中止になったが、豊浜町の伝統行事を成功させるための自分たちの役割について考えるきっかけとなった。

また、普段とは異なる集団の中で他者と協力することで、多様な考えや立場を理解する体験ができた。<資料③>

地域を拓く(社会形成能力・課題対応能力)



<資料②>

### 町内清掃



清掃場所の下見・準備進行は生徒の手で

異年齢の班で清掃

地域の一員としての自覚  
地域の課題を発見

<資料③>

### (2) 地域のお年寄りとのペタンク

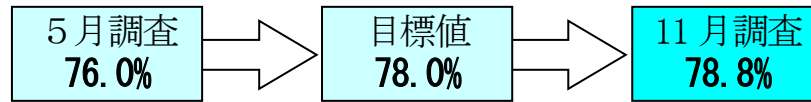
地域のお年寄りとの交流は豊浜中学校の伝統的な行事である。地域の一員として何歳になっても活躍している大先輩から、広く社会と繋がる力を学べる貴重な体験ができ、地域の一員としてその良さに目を向ける力を養うことができた。<資料④>



<資料④>

2 (生徒質問紙) 学級やグループでの話し合いに積極的に参加し、自分の意見を表す  
 ことができているか。

指標 「①感じる+②少し感じる」の合計



指標の達成に向けた実践

○ なかまと拓くプロジェクトの取組

<資料⑤>

生徒会役員自らが提案・企画した  
 行事の実施<資料⑥>

企画書を生徒会担当職員に提出し、  
 企画会を通ったものは生徒たちによっ  
 て運営される。

(1) 朝のボランティア清掃

リーダーが全校生徒にボランティア  
 を募集し、早朝に運動場の草抜きを  
 実施した。日程の決定、全校生徒へ  
 の周知、準備、片付け等すべて生徒  
 自身に任せる。<資料⑦>



< 資料⑦ >

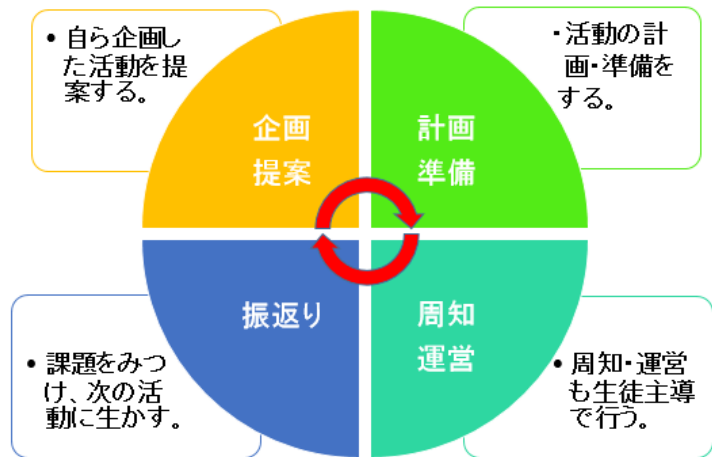
(2) 定期テストに向けての自習教室

定期テスト期間の昼休みに空き教室を  
 利用し、自習教室を開催した。新生徒会  
 本部役員による企画。<資料⑧>



< 資料⑧ >

なかまと拓く(人間関係形成能力・課題対応能力)



< 資料⑤ >

豊浜中学校先生各位  
 令和3年11月15日  
 豊浜市立豊浜中学校  
 生徒会 \_\_\_\_\_

自習室開設活動の企画提案について

生徒会での協議の結果、下記のとおり自習室開設活動の企画を提案致しますので検討をお願い致します。

配

- 企画名 自習室開設活動
- 目的 自主学習精神・意欲の向上
- 日時・場所 11/19(金)~11/25(木) (期末テスト発表期間) 各学年ランニング教室
- 活動内容 自習
- 準備物 ランニング教室のカギ
- 活動終了までの動き  
 [前日まで] 11/18(木)に 11/19(金)までと教員の先生にお願いして、プリント等をもらう  
 放送  
 [期間中] 給食が終わったら原田がランニング教室のカギを取りにいって、  
 各学年に1人ずつ生徒会役員が監督につく。(交代で回る、原田が先  
 とこの学年へ行く)  
 19、21になったら自習者へ終了の合図を出す。その後、原田がカ  
 キを回収して回る。

以上、<資料⑥>

3 (生徒質問紙) 授業と将来のつながりを感じることがありますか。

指標 「①感じる+②少し感じる」の合計

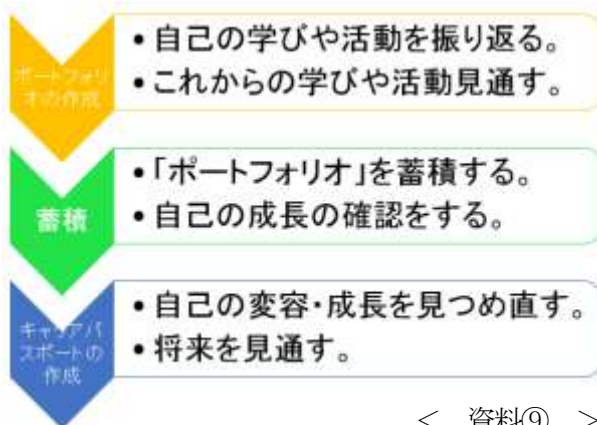


指標の達成に向けた実践

○ 未来を拓くプロジェクトの取組<資料⑩>

未来を拓く(自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力)

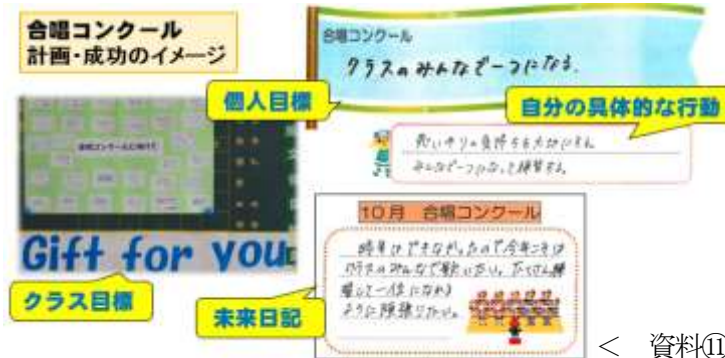
学校行事を通して、「自分のよさや個性を理解したり、よりよい生き方について考えたりできるようなワークシート」を用いた振り返りについて研究した。<資料⑨、⑩>



<事例1：合唱コンクール>

① 目標・未来日記

行事前に、「自分は行事に対してどのようにがんばりたいのか」具体的な見通しを持たせる。



② 振り返り

行事後、「自分のどこが成長したのか」を振り返る。<資料⑫>



### ③ 良さの発見

自分だけでなく友達の良さを見付ける活動も取り入れる。<資料⑬, ⑭>

### 友だちの良さを見付ける活動

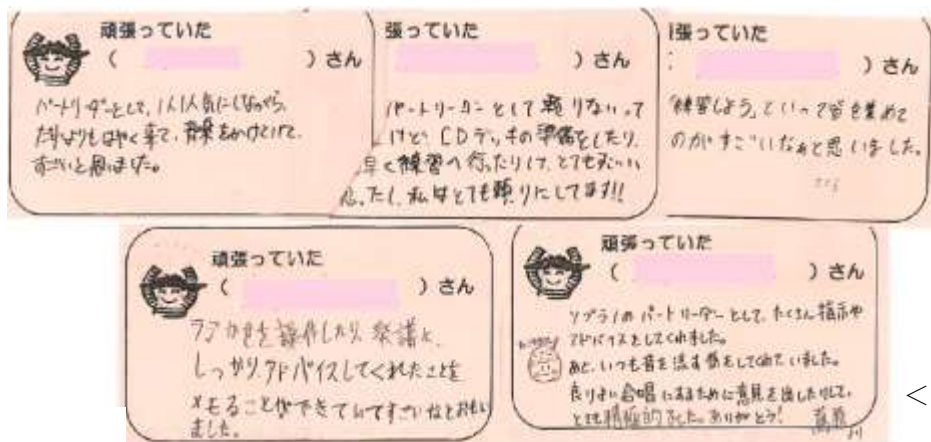
#### <教師の支援>

合唱コンクールの振り返りでは、他者からの評価をもらう時、誰からももらえない人がないように、パート内の人全員に書くという工夫をした。

いいことをした人が限定されないこと、誰でも1つはいいところを見付けてもらえるように配慮した。



< 資料⑬ >



< 資料⑭ >

### ④ まとめ・次への見通し

友達の評価から自分の良さを見つめ、さらに行事を通して、これからは生かしたいことを改めて考える。<資料⑮, ⑯>

#### <教師の支援>

「行事前の未来日記」、「他者からの評価」を材料に、再度振り返る時間を作ることで、次の行事や次年度の行事で何をどうがんばりたいのか見通しをもてるように工夫した。また、キャリアファイルに蓄積したポートフォリオを見直すことができるようにすることで、「成長した自分」の姿を見直し、前向きな気持ちも次の行事へとつなぐことができるようにした。



< 資料⑮ >

合唱コンクールも通して、やっぱり仲間や友達と「あんなに楽しかった。自分1人では、合唱は、完成しません。だから、3年2組のチームとして、いろいろな意見があったけど、いい歌が最後まで完成できたと思います。パート1-2をして、みんなのいいところを分けてあげたいです。

< 資料⑯ >

## <事例2：キャリアパスポートの作成>

3年間のポートフォリオから、キャリアパスポートとして残したいものを選び、選んだ理由、自己の成長、将来への思いについて語り合う。

### ① 中学校生活を振り返る。

キャリアパスポートとして残したいものを選ぶ。<資料⑰>

蓄積したポートフォリオを振り返る時間をたっぷり作り、行事に向けて頑張っていた自分の姿を思い出すとともに、自己の成長を実感できるようにした。

#### 3年学級活動

学校行事を振り返り、将来への思いを語り合う。



< 資料⑰ >

### ② 変容・成長を語る。

「なぜそれを選んだのか。」  
「そこから何を学んだのか。」<資料⑱>

男女混合の4人グループにして、自由に語り合えるような雰囲気作りに努めた。また、選んだ理由をあえて書かせないことで、相手を見て自分の気持ちを語れるようにした。



< 資料⑱ >

### ③ 未来を語る。

「高校では、何をがんばりたいか。」  
「どう成長したいか。」<資料⑲>

班で語り合った後、全体の場でグループの代表が自分の思いを語る場面を作った。受容的な人間関係作りを心がけた学級経営を行った結果、堂々とした語りができた。



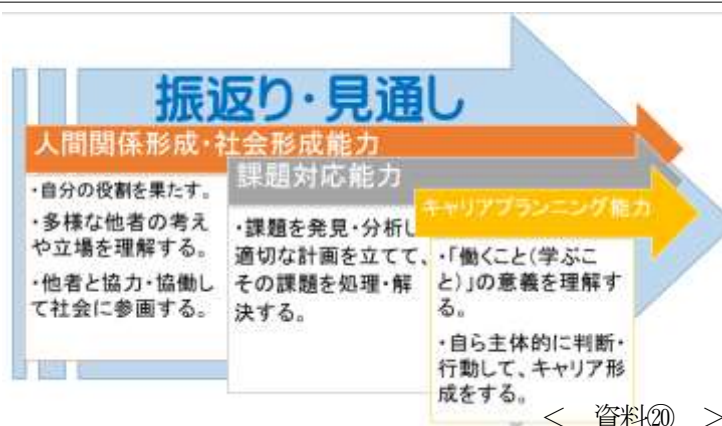
< 資料⑲ >

## ◆特徴的な取組

### ○ 「振り返り」と「見通し」の習慣化

キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成に向け、各教科の授業、特別活動、総合的な学習の時間で「振り返り」を習慣化し見通しをもって教育活動に取り組めるようにした。

<資料⑳>



## IV 研究の成果と課題

### 「地域を拓くプロジェクト」成果と課題

- 地域の一員として活動したり、異年齢の人たちと積極的に関わったりして、自己有用感が向上する生徒が多数見られた。
- タブレットを使って地域の企業を調べ、企業紹介のプレゼン作りをすることで、地域産業やそこで働く人々へ関心をもたせることができた。〈資料②〉
- 町内清掃の本来の目的を生徒にも教師にも引き継ぎ「課題を見付ける目」を養っていけるようにしたい。



〈 資料② 〉

- ペタンクの活動は1年次だけなので、競技を通してつながった人たちと継続して交流し、地域の課題や豊浜町の将来の事などについても話し合える機会を作っていきたい。

### 「なかまと拓くプロジェクト」成果と課題

- 「生徒の主体的な活動」に重点を置いて活動してきた。昨年度より実施している企画書が、新役員になっても継続的に出されており、生徒会役員企画による新たな活動も行われている。また合唱コンクールなどの行事を通して、班活動が活性化した学級もあった。
- 生徒会企画で行われている行事については「その活動を行う目的」をもっと明確化していく必要がある。また生徒会集会を開催し、委員会ごとの発表を行った。発表内容や方法を生徒主体で考えていくという方針で始めたが、発表までの段取りを教員がほとんど行ってしまう場合も見受けられる。来年度実施する場合は、再度方針を伝え、生徒が考えやすい環境を整えていく必要がある。
- 1年生は失敗や反論を恐れて話し合い活動に主体的に参加できていない生徒の割合が多いので、今後は教育活動の基盤となる「なかま作り」に軸をおき、友だちの意見を温かく聞ける受容的な人間関係作りについても研究を進めていきたい。

### 「未来を拓くプロジェクト」成果と課題

- 行事の前後のワークシートを工夫することで、行事への見通しがもて、自分がどのように行動すればよいか具体的により豊かにイメージできるようになった。また、友だちの良さを見付ける活動を通して、自分の良さにも気付くことができ、肯定的な自己理解につながった。語り合う活動を通して、仲間どうしで思いを共有することができ、他者への理解が深まった。
- 今後は、自分の行動や頑張りを具体的に書いたり、話したりすることが苦手な生徒への手立てや、行事と行事をつなぎながら、自分の成長をさらに実感できるようにするための工夫、行事を通しての自分の成長を、日々の主体的な行動につなげる工夫なども研究していく必要がある。
- 一人一人の生徒の良くなったところを、褒められるように日ごろから生徒観察をしていくことが大切である。
- 行事の見通しをもたせる時に、前回の行事を思い出させる時間をとる。その際、良かった所、成長したこと、課題などを具体的に書かせるようなワークシートを作る。今後は、後輩に自分の学びについて伝える欄を作るのもよいのではないかと。
- 生徒から出た主な課題を掲示して、常に意識させるようにする。

これからも、見通し・振り返る活動を積み重ねて、「やればできる」と自分の成長を実感できるようにさせていきたい。また、「何をどう頑張りたいのか」具体的なイメージを持ち、前向きに生活していく力を付けることで、自分の生き方を主体的に選択できる生徒の育成をめざしたい。